

様式 5

平成 29 年度 学術振興基金助成による成果報告書

平成 29 年 10 月 16 日

学 長 殿

所属部局・職名 共生システム理工学研究科・
学生

申 請 者 名 小林 拓末

助成事業の区分 (該当するものに印)	研究協力に関する事業 (学術出版・叢書・学会等運営・ <u>学会参加</u>) 学術振興に関する事業 (<u>学生</u> ・事務職員・その他の特別事業)
事業名	2017 Asian Conference of Management Science & Applications (ACMSA2017)
事業実施期間	平成 29 年 12 月 ~ 平成 29 年 12 月
成果の概要	<p>平成 29 年 12 月 25 日(月) ~ 28 日(木)中国福建省福州市、クラウンプラザ福州リバーサイドにて開催された 2017 Asian Conference of Management Science & Applications に参加し、研究成果を発表した。またそれに際し、5 頁の論文投稿を行った。</p> <p>発表のタイトルは「Study on Innovation Method for Responding to Changes in Recent Market Environment」として発表した。近年の市場では、成熟化やコモデティ化、デジタル化などの環境変化が生じていることで、従来の製造企業は同様な手法では継続的に価値を創造することが困難となっている。</p> <p>このような変化に対応するため、オープンイノベーションによる製品開発手法と Service-Dominant Logic による価値の視点を組み合わせることにより、新たな価値創造手法で模倣困難な価値を生み出すための概念的考察を行った。</p> <p>具体的な発表の内容は、多くの企業はモノを生産し販売していた。しかし、市場が成熟化するにつれて、顧客への製品普及率が高まっていることから、このような従来の手法では対応することが困難となっている。また、企業が革新的な製品を市場へと投入するが、そのような製品は競合他社からすぐに模倣されることで市場はコモデティ化してしまう。そして近年、デジタル化が急速に進行していることで企業と顧客の接点が劇的に増加することで従来の顧客管理の手法では対応が困難となっている。このような変化に対応するために、企業は従来と異なる経験による価値を顧客へと提案する手法を提示した。</p> <p>また発表を通じて、学会参加者による質問や意見交換などの議論が行われることで、本研究を発展させるための大きな手掛かりを得ることができた。また、国外の学会に参加することで様々な国の参加者の発表を聴くことができ、貴重で有意義な経験をすることができた。</p>